

式辞

信濃の大地にも春が訪れ、生きとし生けるものが皆、躍動し、エネルギーに満ちあふれています。

本日、ここに保護者の皆様のご臨席を賜り、令和二年度の入学式を挙げてまいりますことは、誠にありがたく、喜びに堪えません。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございませぬ。皆さんは自ら進んで本校を志願し、ただいま入学を許可され、その志を達せられました。

本日のこの喜びは、皆さんのこれまでの努力の結晶であることは言うまでもありませんが、その陰には、皆さんを慈しみ、育ててこられた保護者、教えを受けた先生方の愛情があつたことを忘れないでください。

皆さんが入学されたこの篠ノ井高等学校は、

大正十一年に創立され、令和四年度で百周年を迎えます。ここより巣立っていった同窓生は、三万人を超えようとしております。多くの先輩が、国内ばかりではなく、広く国際社会におきましても活躍されておられますことは、現在、ここに学ぶ者にとりましても、誠に心強いことです。長い人生経験を積んだ卒業生の方々が、本校での青春のある時期を懐かしく、また、誇らしく思い出される場面に出会うとき、私たちは、教育活動への思いを新たにし、本校が、さらに豊かに発展いたすことを、心に誓うものがあります。

さて、新入生の皆さん、高校とは、どんな場所だと思いますか？これから続いていく人生のなかで、高校とは、ただの通過点ではありません。将来の自分の姿を思い描く場所であり、その自分を実現するための、力をためる場所です。

皆さんは、どのような三年間を過ごしたいと

思っていますか？まだそこまでは考えていない、という人も、今日から三年先の自分の様子を、今、頭の中に、思い浮かべてみてください。イメージしてほしいのは、高校三年生で、卒業を迎えようとしているあなたです。どんな自分が見えますか。どんな表情をしていますか。将来を、向かう先を見つけているでしょうか。それは、誰かに与えられたものですか。自分で見つけたものですか。そのとき周りにいてくれるのは誰でしょう。

今はまだ想像でしかないその風景は、皆さんがまさに今日から実際に作っていくものです。

イギリスの小説家、サマセット・モームは、「人間の絆」という本のなかで、人生をペルシヤ絨毯に例えて、「人は、それぞれに、自分の人生模様を持つ絨毯を織っている。それは世界にひとつしかないものだ」と書いています。これから皆さんが過ごすそうとしている高校時代は、まさにその絨毯のデザインを決めるとき

にあたります。絨毯は、縦の糸と、横の糸で、織られていますね。

高校生活の縦の糸とは何でしょうか。

これから日々展開する授業をもとにした、学習活動でしょうか。であれば、横の糸は、友達や先輩、後輩、そして先生方とつむぐ、クラブ活動、生徒会活動をはじめとした、人との絆でしょうか。高校時代に丈夫な縦糸、横糸をつむぎ、個性豊かな数々の経験を織り込み、自分にしか作ることのできない絨毯を織ってほしいと願っています。

昨年度の台風十九号被害、そしていまだ続いている新型コロナウイルスの蔓延と、思いもかけない天災が私たちに要求するものは、マニュアルを妄信するのではなく、今、自分が誰と何をどのようにすべきかを、人と話しながら組み立てる力だと思われれます。本校の様々な教育活動を通して、皆さんが今、内に秘めている多様な可能性をひとつずつ外に出して、試してみてください。

保護者の皆様に申し上げます。

皆様方におかれましては、お子様の成長のため、

ふんこつさいしん

粉骨碎身で養育されたご労苦に対しまして、敬

意を表するとともに、本日の入学式に臨まれる、

今のお気持ちはいかばかりかと、心より祝意を

ひょう

表したく存じます。

青春時代の貴重な三年間、篠ノ井高校で学ん

いしずえ

だことが、生徒にとって将来の大きな礎とな

るべく、私たち教職員は一丸となつて、皆様

方に信頼いただける学校を作つてまいりたい

と思つております。どうか、ご支援とご協力を

お願い申し上げます。

最後に、新入生の皆さんが将来、「高校での

あの三年間が、自分の人生において、本当に意

味のある時期だった」と思えるような高校生活

を送られることを祈念して、式辞といたします。

令和二年四月四日

長野県篠ノ井高等学校長

小金 典子